

煙樹海岸県立自然公園の公園計画の一部変更について（概要）

1 公園の概要

① 地形・地質

白馬山脈の支脈が紀伊水道まで張り出し、先端部の沈降により形成された典型的な沈降海岸である。海岸線には海食崖・岩礁・砂浜・礫浜など多様な地形が連続し、優れた自然景観を形成している。特に日高川河口には干潟（塩湿地）が広がり、阿尾では近畿最大級の潟湖（ラグーン）が見られるなど、学術的にも貴重な地形が分布している。地質は主に中生層の砂岩・頁岩・礫岩からなり、河口部は砂礫の堆積地となっている。

② 植生

海岸部にはウバメガシを主体とした常緑広葉樹の二次林が広がり、内陸にはタブノキやヤブニッケイ、シイ・カシ類の森林が分布する。規模は小さいものの、ハマボウ群落や塩湿地植生、ウバメガシ・タブノキの自然林など、貴重な植生も点在する。煙樹ヶ浜の松林や神社林なども含め、多様で特色ある植物景観が形成されている。

③ 動物

海岸や湿地は多くの野生生物の重要な生息地・渡りの中継地となっている。煙樹ヶ浜ではシロチドリなどの海浜性鳥類が繁殖し、希少な渡り鳥も飛来する。日ノ御崎はタカ類の渡りの名所で、サシバやハチクマなどが確認されている。阿尾湿地はトンボ類が豊富で希少種も多い。さらに、日高川河口の干潟ではカニ類などの希少生物が生息しており、生物多様性の高い地域となっている。

④ 自然現象

美浜町沖の潮吹岩では、海食洞に打ち込む波の圧力により海水が噴き上がる「潮吹き現象」が見られる。特に高波時や満潮時には高さ約 15m にも達し、迫力ある自然現象として知られている。

2 変更案の内容

整備方針の変更

煙樹ヶ浜の園地について、従来の「自然探勝のための整備」から、「自然探勝の拠点となる休憩所等を含む園地」としての整備に変更する。

3 変更の理由

美浜町では、煙樹ヶ浜を町のシンボルと位置づけ、より一層の充実・活用と広域的連携を図ることで、観光・交流機能を強化することとしている。その一環として、地域の特産物を扱う施設を整備する。

本施設は、水揚げされるシラスなど旬の魚の供給拠点となることを想定しており、それを契機に伝統漁法である地引網漁の復活を図るなど、地域の水産業の振興に資する役割を担うものである。これらの施設整備を目的として、公園計画の変更を行うものである。